香美市文芸

# 風の流れ

◆一般投稿作品◆　広報委員会　選

日脚伸び夕餉の支度かろやかに　楮佐古きよ
蕗の薹太郎次郎とむつまじく　福留とものり
花冷や母の袂を離さぬ子　山﨑　貴子
野の隅に誰が名付けし母子草　森本　幸美
草餅やそれぞれの味貰いけり　山﨑　寿美
ひがしやま色よく乾き味もよし　坂本美智子
他愛なく三人寄りて日向ぼこ　岡田美代子
冬空へ谷川の鷺飛び立てり　北村千鶴子
今年又小鳥待ち居り椿咲く　有澤　春江
オルガンに歌声弾む四温かな　千頭　野草
春立つや心の隅に灯そ点ず　森本　純喜
敬老会良い運命の皆笑顔　高野　和一
パンジーを並べて玄関らしくなる　三谷　誠郎
大雪や日本の国を白く染め　岡村　和躬
一時を帽子パン食べ蝌蚪に添う　西内　道彦

◆韮　句　会◆

雨二た夜冬菜のいろのもどりけり　公文　春紀
老いたれど願ひごとあり春の寺　岡本かほる
春雨の降りみ降らずみ宮の杜　高橋　章
雪載せて走る列車に客まばら　明石ゆきゑ
神木となりて千年杉の花　北村　幸子
草萌ゆるアンパンマンの庭広し　西川　常夫
水仙に向かひ心を立て直す　甲藤　卓雄
小鳥来ず椿の花の落ちにけり　國澤　英
気配して目覚む看取りや冬障子　北村　里子

無住寺の空はるかより春の鳶　野崎　典子
頬に受く風の匂ひや春隣り　小野川順子
話しこみ気付けば夕日日脚伸ぶ　前田　芳子
松過ぎて診察待ちの人多し　中内ゆかり
スタンドに給油の尼僧春寒し　竹内　ろ草

◆かがみ野俳句会◆

群離れ瞑想中か浮寝鳥　佐竹　洋子
バレンタイン仏の夫にチョコレート　佐藤　幸
沈丁香眼裏にあり香を想ふ　利根　弘子
埋火に母のぬくもり手を翳す　古川　信子
また一戸新居の増えて村の春　小松　愛子
一点を見つめ汽水の寒の鳥　中澤　美晴
女正月生前整理決めかねて　森本　倢代
沈丁に父の手植の鍬の音　山崎　鈴子
岸焼いてまほろばの野を近うせり　吉田　芳

◆かほく俳句会◆

一本の杭にとまどふ春の水　乾　真紀子
白髪嶺を望む故里菜花咲く　奥宮さとみ
霜柱梨園を継ぎ五十年　久保内鏡子
立春のお札菩提寺より来る　黒岩　幸女
悴みて掴み損ねし物いくつ　黒岩千英子
窓拭くやぐんと近寄る春の山　小松　完
妙齢の寡婦の入りたる焚火の輪　小松　隆之
声高に尺もて来いと雪の朝　小松　昇
悴む手夫が両手に包みくれ　杉山　春萌
鬼よりも人怖ろしき豆を打つ　前田　欣一
春寒の続く農婦の大朝寝　前田　秀女
鏡台に狸の油日脚伸ぶ　間崎　和代
黄昏て菜の花湖へ溶けはじむ　森本　之子
雪埋む山家に人の気配かな　山崎かずみ
親友とかれこれ云ふて苗木選る　山中　晶子

玄関に礼は無用と大根置く　山中　瑞輝
亡き母に似て皹に泣く吾も子も　山中　明石

◆土佐山田町俳句会◆

Yの字の支柱もきめて懸け大根　明石　韮生
春一人生きる手鏡眉描いて　中澤としみ
木の芽雨真白な母の糸切歯　安丸　槇子
路傍の石ふくみ貌して春を告ぐ　橋本　昭和
初蝶を見しと昂ぶる子の夕餉　大石　邦男
山里の鴉を伽に畑打つ　笹岡　英世
豆撒けど心の鬼は追い出せず　森田　貞男
一つ灯にまとまる家族福寿草　森田　菊恵
リハビリが今日一日の仕事かな　前田　三郎
探梅や一日穴の明く厨　前田　小夜
集会所の裏の土嚢と藪椿　前田美智子
眠る山送電塔の林立す　田村　一翠

**今月のキラリ**

**蕗の薹太郎次郎とむつまじく**

蕗の薹に春の訪れを感じ、歳月の流れを思うのである。太郎次郎は幼い日の兄弟の有り様か。

**俳句・短歌の投稿方法**

▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782−8501（住所記載不要）
FAX 53・5958



香美市立美術館

# アートの窓

YOHICHI　NISHIMURA

## 西村洋一　水彩画展

4月7日（土）〜5月20日（日）

▲若葉の頃

平成24年度最初の展覧会は、西村洋一さん（四万十町在住）の水彩画展を開催します。

1952年、高岡郡四万十町（旧窪川町）生まれの西村洋一さんは、1975年に交通事故で頚椎（けいつい）を骨折し、全身麻痺を負います。その後、わずかに動く右手で水彩画を描き始め、1994年に高知市内のギャラリーで最初の個展を開催しました。1997年からは、障害者支援施設オイコニアに入所し、さらに制作に力を入れます。四万十町のギャラリー556、高知市の星ヶ岡アートヴィレッヂや、てく・とこギャラリー、越知町立横倉山自然の森博物館等で次々と個展を開催し、近年は年に1〜2回のペースで作品発表を行っています。

1998年には最初の画集『旅の途中』を出版。その後も2002年に画文集『季の贈り物』、2006年画文集『風を紡いで』を出版しています。作品集には、自然と真摯（しんし）に向き合い、四季の移ろいを描きとめてきた画家の「生の軌跡」と言うべき作品群がおさめられています。

写真の作品『若葉の頃』を見ると、大きな楠が画面いっぱいに枝を伸ばし、豊かな緑の葉を茂らせています。木々の間を渡る風や、日の光、鳥のさえずりまで聞こえてきそうです。生命の輝きが画面から伝わってきます。

今回の展覧会では、西村さんの長年描きためてきた素晴らしい作品を一堂に展示します。西村さんの作品と生きる姿勢は、見る人にさわやかな感動と、人生で出合うさまざまな困難に立ち向かう勇気を与えてくれるようです。多くの皆さまにご覧いただきたい展覧会です。ご来館をお待ちしております。